

幼小連携協議会

～幼・小・教育学部が連携～

令和5年8月24日に、附属小学校から4名の先生方を迎え、長崎大学 森野美央准教授と共に、幼小連携会議を開催しました。文部科学省から、「幼保小の架け橋プログラム」が示され、今後ますます幼小の連携が重要になってきます。昨年度は、小学校と幼稚園の子どもたちがどのような学びをしているのかを共有して相互に理解を深め、架け橋期の教育をより充実できるようにというねらいで進めていきましたが、今年度は、幼稚園から小学校への接続がよりスムーズに行われるにはどのような取組をすればよいか考えることをねらいに進めていきました。

小学校からは、4月からの子どもの様子を紹介してもらいました。附属幼稚園出身の子どもたちは、「学級の友達に声をかけて学級をまとめようとしている」「授業に対する勢いを感じる」というお話がありました。

幼稚園からは、附属幼稚園での学びについて事例を紹介し、子どもたちがどのような学びをしてきたかを伝えました。小学校の先生方は小学校での学びと比べながら、幼稚園での学びが小学校につながっていると実感していました。

互いの話を受けて、スムーズな接続について話合いましたが。視点の一つとして、幼稚園の登降園と小学校の登下校の違いが挙がりました。幼稚園は保護者が付き添っての登降園ですが、小学校の登下校は子どもたちだけで行います。幼稚園の年長の時期に、小学校の登下校と同じルートを通ってみるなど、ちょっとしたことを親子でしておくことで、登下校の不安が解消されるのではないのでしょうか。

今後も、幼稚園・小学校・教育学部が連携して、幼稚園と小学校の接続がスムーズになる方策を探っていきたいと思っています。